

## MINI NEWS

## HFSP の資金を確保するために

## BIOLOGY THINKS BIG TO STAY CUTS

ALISON ABBOTT 2010年3月11日号 Vol. 464 (151)

壮大な研究プロジェクトを提案する生物学者は、リスクに寛容なヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP) に資金を頼ることが多い。創設20年の HFSP は、世界で唯一の国際研究資金提供機関であり、毎年総額約 6000 万ドル (約 54 億円) の助成を行い、生体機構の研究を支えてきた。

今年3月、HFSPの事務局長

Ernst-Ludwig Winnacker は、生物学の今後について、第一人者の研究者 20 数人と会合を開いた。会合では、遺伝学的技術が引き続き生物学の最先端であり中心であること、顕微鏡のような技術がその原動力となり続けること、化学分野の発展がそれを支えることで、合意した。また、オーストリア科学技術研究所 (ウィーン) の Tom Henzinger が、

生物現象の解明に純粋数学がますます有用になるという見解を示し、賛同を得た。Winnacker は、「我々は、どのような研究アプローチにも耳を傾けます。判断基準は、卓越性、リスク、生物学の3つだけです」と話す。

会合の一般声明は、HFSP 初の公式戦略報告書に盛り込まれる。この報告書は、5月の HFSP の会議で極めて重要な意味をもつ。世界的な金融危機が HFSP 加盟国を圧迫しているのだ。実際、HFSP 予算の約半分を拠出している日本は今年になって5%削減した。しかし HFSP は、不況時こそ賢い投資先として最先端研

究を選択すべきだと、加盟13か国と欧州連合代表の説得に奔走している。HFSP のほかに類をみないプログラムは、野心的な研究計画に非官僚的な支援を行う点で人気があり、Winnacker は、この報告書が、継続的な資金提供に役立ってほしいと考えている。「科学研究が国際的になっても、資金提供は国や地域の問題だというパラドックスがあります。政治的国境は、資金の共同提供を複雑にしていますが、HFSP は政治的国境をもたない唯一の機関なのです」。Winnacker はこう語っている。

(翻訳: 菊川要)